



有明高専だより

第120号
2006.12



特集 国際交流2006

シリーズ 研究室訪問

シリーズ 企業(卒業生)訪問

オープンカレッジ

第25回高専祭

目次

- | | | |
|-----|------------------------|-------|
| 2・3 | 九州沖縄地区・全国高専体育大会 | 10・11 |
| 4 | 学校特別表彰・プロコン・NHKロボコン | 12・13 |
| 5 | 英語弁論大会・ホンダエコラン・ソーラーボート | 14 |
| 6・7 | 夏季実習報告(専攻科) | 15 |
| 8・9 | トピックス | 16 |

※本文中に於いて、学生氏名の前にある英数字等は、所属クラスを表します。

(数字:学年、M:機械工学科、E:電気工学科、D:電子情報工学科、C:物質工学科、A:建築学科、専:専攻科)

10月14日の校内見学会での5年生

特集 国際交流 2006

姉妹校（遼寧石油化工大学）訪問

専攻科生の遼寧石油化工大学訪問と遼寧省瀋陽・大連の旅行

専攻科長 宮本 信明

9月9日～15日に、専攻科生6名と教員2名（宮本・劉）で姉妹校訪問を含む中国遼寧省の撫順・瀋陽・大連の各都市を旅行しました。

本校は昨年6月に遼寧石油化工大学（撫順市）と姉妹校になりました。この大学には文系も含め15学部があり、2万人近い学生が在籍しています。昨年の体育祭に大学から陳副学長と他2名の方が来校され、このときに今回の専攻科生による姉妹校訪問が提案されました。

9月10日に石油化工大学の環境生物工学部を訪問しました。陳副学長による歓迎あいさつの後、日中学生による交流会が行われました。英語か相手国の言葉による自己紹介、討論会を行い、その後校内を見学しました。そのころには学生達はすっかり仲良くなり、英語か日本語で会話をしていました。この大学では日本語教育にも力を入れ、交流会に出席した大学院生数名が日本語で会話をしていることには驚かされました。

撫順市では他に汚水処理場、西露天礎などを、瀋陽市では瀋陽世界園芸博覧会、瀋陽故宮を含む世界文化遺産を見学しました。瀋陽から大連まで（約400km）は列車の旅を体験しました。

専攻科生は見学や買い物、食事などを通して中国人や中国のことを見聞でき、実り多い旅行だったようです。この旅行を具体的に計画し、現地でも助言や協力していただいた劉先生に心より感謝いたします。

姉妹校学生の印象

応用物質専攻1年 宮辺 純

飛行機で瀋陽に到着した際、日本と違い、山がなくどこまでも見渡せるような広大な土地で、大陸に来たのだという第一印象を受けました。

2日目に遼寧石油化工大学を訪れ、大学院生との交流会に参加しました。両校の先生によるあいさつの後、私たちは英語または相手国語で自己紹介をしました。彼らは英語だけでなく日本語も流暢であり、自分たちの英語力のなさを実感すると共に、友好的な彼らに好印象を抱きました。大学を離れる頃には親しい友人が多数でき、充実した時間を過ごすことができました。

また、歴史的な文化遺産などの様々な場所を見学し、知見を広めることができました。この経験は社会に出る際に、きっと役立つと思います。

姉妹校訪問を終えて…

応用物質専攻2年 坂上 直子

姉妹校訪問は午前中の短い間でしたが、交流は活発に行うことができ、有意義な時間を過ごすことができました。英語での発音が聞き取りにくい場面もありましたが、互いに歩み寄ることで交流会を盛り上げることができました。大学は敷地がとても広く、隣の棟に歩くだけでも時間がかかり大変でした。学生も多く、学校全体が一つの街であるような印象を受けました。

この訪問を通して、両国学生同士の親睦を深めることができたと思います。そして、国際的な研究者を目指す私達には英語は最も重要な手段だと再認識させられました。この経験を踏まえ、一人前の研究者になれるよう日々精進したいと思います。すばらしい旅行を計画・援助していただいた皆様に深く感謝を申し上げます。



陳副学長の歓迎挨拶（左端：張環境生物工学部長）
(右から2人目：宮本専攻科長、右端：劉教員）



交流会（左8人目からは中国の学生と先生）



談笑しながらの校内見学



施設見学（図書館）



英語で自己紹介する坂上さん



二百三高地（日露戦争激戦地、遠方に旅順港）



学生寮（姉妹校は全寮制）



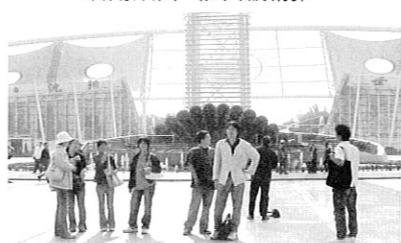
瀋陽故宮（大政殿前）



撫順汚水処理場（曝気槽）



西露天矿（世界屈指の石炭露天掘り現場）



瀋陽世界園芸博覧会会場入口前

中国遼寧石油化工大学より本校訪問研修中の郭客員教授のあいさつ



郭 大光 先生

I come from Liao Ning University of Petroleum and Chemical Technology in China. I work at the College of the Petroleum and Chemical Engineering of the university. Chemical engineering is my major. I graduated from North University of China in Tai Yuan in Shan Xi Province. As a professor, taught the Principle of Chemical Engineering, the Process of Mass Transfer and so on. My research subjects include emphasize heat transmitting and new separate way in chemical engineering.

As an exchange scholar, I appreciate the chance to come to Ariake College and have enjoying happiness of working and living at here. In my opinion, although the college is far away from down town it is nice, clean, quiet for studying and researching. I like the atmosphere and environment here, in further impress me with the friendship from the teachers and students.

My hobbies are not much, just travel, light music and collecting stamps, so I hope to exchange stamps with friends here in future. Cooperation research with Professor Kawase and Professor Tanaka is about Thermal Spray technology and application. I believe it is a useful technique in many areas and hope to achieve greater result.

私は中国の遼寧石油化工大学から参りました。大学では石油化学工学院に勤務しており、化学工学が専門です。教授として化学工学、物質移動プロセスなどを教えています。研究テーマとしては特に化学工学における熱移動と新しい分離法に関することです。出身大学は、山西省の太原にある中北大学です。

交換研究者として、有明高専に滞在し勤務する機会をいただいたことに感謝しております。高専は都市部からは離れてはいますが、勉学と研究には適したきれいで閑静な立地であると感じます。有明高専の持つよい雰囲気と環境、さらに先生方や学生の皆さんからご厚情をよせていただいたことが心に残っております。

大した趣味はないのですが、旅行、軽音楽、切手収集などで、今後はこちらで親しくなった皆様と切手を交換できたらと思います。

川瀬・田中両先生との共同研究は溶射技術とその応用がテーマですが、多くの分野で有益な技術であり、今後、より大きな成果が期待されます。

(G科 安部規子 訳)

シリーズ 研究室訪問

今回は、機械工学科の吉田正道先生と物質工学科の富永伸明先生の研究室を訪ね、お話を聞きました。

(聞き手：M科 原慎真也)

吉田正道 研究室（機械工学科）

こんにちは、先生の専門分野について何か一言お願いします。

ようこそ、熱工学研究室へ。熱工学と一口に言ってもいろんな分野があります。何を習ったか結局よくわからない熱力学分野、熱の伝わり方と言わざれども熱の流れは目に見えないからしつくりこない伝熱工学分野、さあ、いよいよエンジンだと期待したが、理論ばっかりで面白くない熱機関工学分野など、学生の皆さんにとって、難しくて取り付き難い印象が強いと思います。

実は私も熱は苦手なのですが、なぜ分かり難い熱工学関係を研究されておられるのですか？

生来、私はひねくれ者ですから、人から嫌われるものを好きになります。だいたい熱工学は、工学の中では脚光を浴びず、縁の下で顔を真っ赤にして屋台骨を支えている日陰者です。私の専門分野である伝熱工学は、そのなかでも、特に日陰度が強く、ほとんど表に現れません。熱をこっそりと逃がしたり、囲い込んだり、はたまた、地下に眠る膨大な熱を引きずり出そうとしたり、陰で胡散臭いことをやっているようですが、技術社会にとっては、なくてはならない重要な役割を担っています。そういうことで、伝熱工学は私の好みに合致し、26年間地道に研究を続けています。

現在の研究テーマは何ですか？

伝熱工学分野、特に地熱抽出の応用を目指した熱サイフォンの研究に加えて、最近は中学校や高専での授業で使用することを目的とした卓上熱実験装置の開発に力をいれてやっています。

最後に学生へのアドバイスをお願いします。

機械技術者は機械が好きであるということが重要なことであり、自然科学科目は道具としてその使い方とある場所を知つていればよいと思います。学生の皆さんにとって、自分の専門分野が対象としているものを好きになることが高専生活を楽しくする必要条件だと思います。



研究室の学生達と

富永伸明 研究室（物質工学科）

こんにちは、先生の研究テーマは何ですか？

環境中に存在する化学物質がいろいろな生物に与える影響を理解するための研究を行っています。

確か先生は薬学部ご出身ですよね！？

なぜ、専門外の研究を始めたのですか？

10年ほど前に環境に放出された薬をはじめとした化学物質が自然の中にいる生物に大きな影響を与えていたことを講演会で知りました。私は薬剤師でもありますが、患者さんに渡す薬が体から排泄された後に環境の汚染源になるなんてそれまで考えたこともありませんでした。しかし、広く生物は共通の仕組みを持っているわけですから、当たり前のことなのです。これが現在の研究テーマを始めたきっかけです。

研究室には生物らしきものはないようですが？

本校に着任するとき、ネズミやウサギなどの実験動物が使えないということで本当に悩みました。しかし、そのことが「線虫」という生物を手に入れるにつながりました。意外かもしれません、線虫は今年を含め2回ノーベル賞をとった生物です！私にとっての幸運は、この生物が生物学の分野では、とてもメジャーな生物なのですが、環境科学分野ではあまり使われてなかったことです。

今後研究はどのような方向に進められますか

現在の線虫での研究を広く環境に存在する生物に当てはめられるようにしたいと考えています。

最後に学生へのアドバイスをお願いします。

先を考えて、今やらなければならぬことが判断できるようになって欲しいです。何と言っても健康が一番、低学年では基礎学力を定着させて下さい。また、4、5年生の卒業研究では、小さくても良いですから新しいことを発見するように研究に執着して下さい。



研究室の学生達と

シリーズ 企業(卒業生)訪問

信号電材株式会社

(福岡県大牟田市新港町1番29号)

本シリーズ第4回目は、今年、経済産業省が発表した「元気なモノ作り中小企業300社」に選ばれた大牟田市にある信号電材株式会社にお勤めの本校卒業生にお話を伺いました。集まってくれたのは、塚本敏樹氏（C科1期）、中村重治氏（E科18期）、遠藤剛氏（I科4期）、猿渡都氏（I科13期）の4名の方です。

（取材：E科 尋木信一）

尋木：最初に、貴社で携わってこられた仕事を教えて下さい。

塚本：最初はアルミの信号灯器の開発、それから平成元年に東京営業所の立ち上げを任せられ、単身赴任しました。学校も1期生だし、どうも初めてのものに縁があるようです。それから、本社の製造部に戻ったかと思えば、大々的な営業展開のため2度目の東京、大阪など経て、古巣の製造部に十何年ぶりに戻ってきて現在に至るという感じです。ですから、うちの会社のいろんな面を見させて頂いたという感じです。

中村：LEDの信号機の品質管理です。外注先（当時は台湾、現在は中国）に2ヶ月に1回の割合で出向いています。

遠藤：最初は、機構設計といった開発の仕事、昨年から品質管理の仕事をしています。海外にも行ったりしています。

猿渡：LEDユニットの評価試験を行っています。

尋木：仕事に関連して在学中にもっと勉強しておけばよかったという科目は何ですか。

遠藤：全部ですね。いろいろな教科で習った知識が、仕事をしていく上でちょっとずつどこかで関わってくるなと実感しています。

中村：中国に行って仕事をすることが多いので、やっぱり英語ですね。

尋木：確かにコミュニケーションは大事ですね。次に、仕事を通じて得られた喜びや仕事に対する誇りを教えて下さい。

塚本：商品として売られている製品の中間部品とかを開発されている方とは違って、信号機ですから、目に見えて効果がわかりますよね。それに、父親の仕事が子供にとってもよくわかる。だから、自分の仕事をやっている証というものが非常に明確になるという所が非常にいいですね。

遠藤：うちの会社はまだまだ発展途上、そういう中で自分たちで会社を作り上げていけるという所にやりがいを感じています。

塚本：試行錯誤しながらやっていくというのは面白いと思いますよ。大変だけどね。

尋木：皆さんの仕事に対する思いが伝わってきました。次に、仕事上で困ったことをどのように解決したか教えて下さい。



左から、中村、塚本、猿渡、遠藤の各氏

塚本：最初は、失敗はしますよ。私もたくさん失敗しました。ただ、そのときどのように対処したらどうなったという経験を次に生かせるといいと思います。これからもおそらく失敗をすると思いますが、これまでの失敗がきっとそのとき役に立つでしょう。ま、役に立つようになきゃいけないということでしょうか。

遠藤：「あきらめない」の一言ですね。責任がありますからね。どうにかしようと前進するしかないと思います。やることやっての失敗だったら、次に生かせるかなと思います。

猿渡：まだ入社1年目だし、わからないことばかりで失敗も多いですが、そのとき先輩方が助けてくれます。助けてもらった所で終わらずに、それを次に生かせるように心がけています。

尋木：失敗も1つの経験として次に生かせればいいということですね。最後に、学生時代にやっておくべきこと、あるいは社会人として必要なことを教えて下さい。

塚本：学生のうちでも社会人になってもやっぱり挑戦するという気持ちを持ち続けることが大事だと思います。

中村：先のことを考えていろいろ準備をすることも大事ですが、実際は社会にでないとわからないことが多いです。だから今を楽しむことも大事だと思います。いろんなことを学生の内にとことん楽しんでおいてもらいたい。中途半端に楽しむのではなく、徹底して楽しむこと、それが何らかの形できっと後につながると思います。

塚本：長い休みの使い方を考えて欲しい。目的意識を持って過ごしてもらいたいですね。例えば、海外に目を向けて欲しい。私の時代にはいろんな意味で海外はまだ遠かったけど、今は短期留学やホームステイなど海外に行こうと思えばそれなりの機会がありますよね。

猿渡：会社に入って、ゴールデンウィークが一番長い休みだと知ったときが一番ショックでした（笑）。

尋木：なるほど、休みの過ごし方ですね。チャンスはたくさんある、それを生かす行動力も大事だということでしょう。どうも、お忙しい中、本日はありがとうございました。

オープンカレッジ2006

開催レポート

天候にもめぐまれた2006年8月25日、26日の2日間、900名近い来場者を迎えて無事に「オープンカレッジ2006」を開催することができました。オープンカレッジは、地域連携の一環として、地域の方々にたくさんの本校の魅力を理解して頂くために開催されたものであり、今年で第2回目となったイベントでした。大牟田市、荒尾市の小・中学生を集めた目玉企画ロボットJリーグ、各学科の特色が表現された体験教室、学校紹介、学科紹介などたくさんの企画で構成されました。今回はそうしたオープンカレッジの様子をみなさんにお届けさせていただきます。また、下記のマップは各学科で開催された体験教室を参加した際にもらえるスタンプラリーシートです。



体験教室

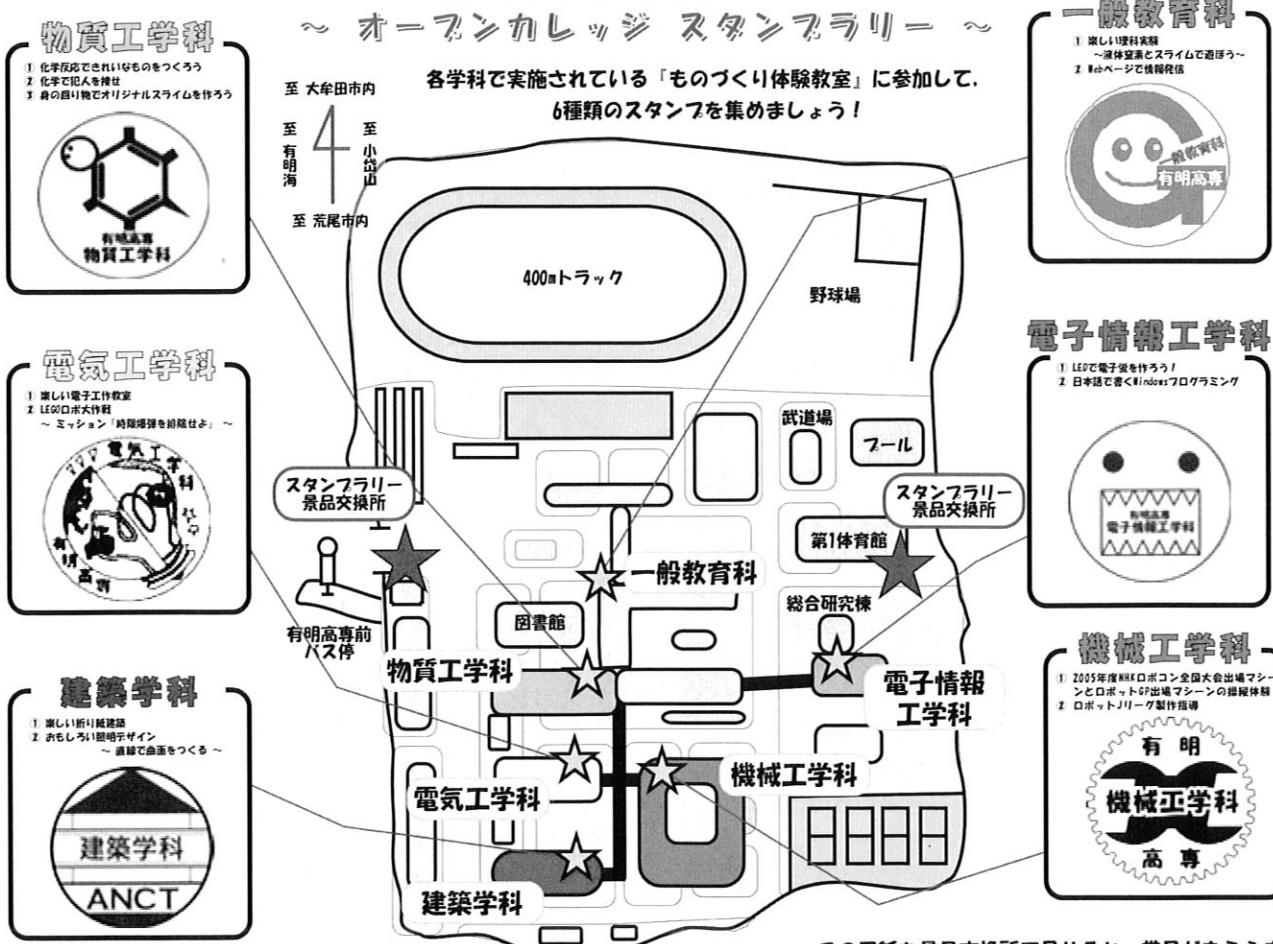


ロボットJリーグの開会式

有明高専学内マップ

～ オープンカレッジ スタンプラリー ～

各学科で実施されている「ものづくり体験教室」に参加して、
6種類のスタンプを集めましょう！



この用紙を景品交換所で見せると、賞品がもらえますよ！

オープンカレッジ ものづくり体験教室

ロボットリーグ

オープンカレッジの目的は、本校の多面的な魅力をたくさんの方に知っていただくということでしたが、各学科で開催された「体験教室」にはたくさんの子供達、そして保護者の方に足を運んでいただきました。少しでも、「有明高専らしさ」を伝えることができたのならうれしいことです。時間も忘れ実験に夢中になる子供達。電子蛍をあつという間に完成させていく子供達。思い思いの形を折り紙から造りだす子供達。パソコンとにらめっこしながら悪戦苦闘する子供達。この2日間で、子供達に何かが得られたのなら幸いです。「ものづくり」というものに興味を持った瞬間がこのオープンカレッジだったという子供達がきっとたくさんでてきくれるはずです。笑顔を浮かべている子供達の顔がとても印象的でした。



オープンカレッジの目玉企画「ロボットリーグ」！今年度も大牟田市と荒尾市から99名という、多くの小中学生の参加があり、たくさんの応援者が集まる中で開催されました。

夏休みの間の5日間で製作された“ロボットの数々”…。

各チームそれぞれの工夫された力作のロボット達が披露されました。

そして、本番…。

競技当日となった26日は各チーム一丸となって1秒を争う白熱した大会となりました。

満足そうな表情や、悔しそうな表情、子供達のいろんな表情が見受けられました。

いつまでも、この体験が思い出として残っていくことを期待したいです。

そして、優勝は…。今年度の優勝チームは荒尾少年少女発明クラブ「一騎当千」が勝ち抜きました！

M科：ロボット操縦体験

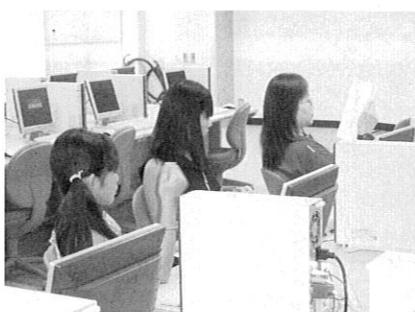
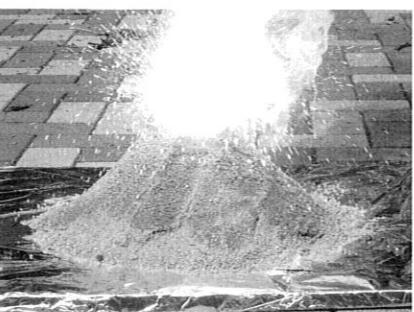
E科：LEGOロボ大作戦ー（ミッション「時限爆弾を排除せよ」）、楽しい電子工作教室（クリップモータ、炭電池）

I科：研究室紹介「レーザーで遊ぼう」、日本語で書くWindowsプログラミング、LEDで電子蛍を作ろう！

C科：ものづくり体験教室

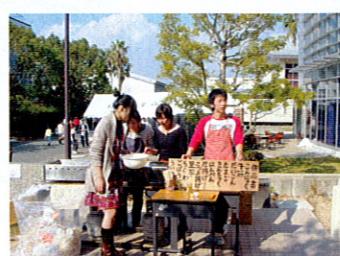
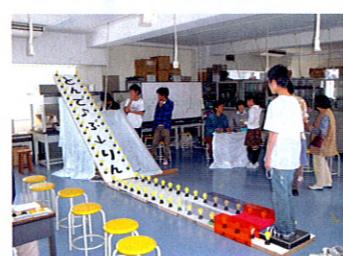
A科：おもしろい照明デザインー直線で曲面をつくる、楽しい折り紙建築

G科：Webページで情報発信、楽しい理科実験～液体窒素とスライムで遊ぼう～



NCT

OPEN COLLEGE 2006



文化講演会

10月28日(土)、29日(日)の両日、秋晴れの好天のもと、第25回高専祭が開催されました。

テーマは「Infinite Possibilities ~フレラダカラ デキルコト~」で、無限の可能性という気持ちを込めています。保護者の皆様、近隣の皆様、あいでいただいた多くの皆様方、ありがとうございました。

これに先立ち、前日の27日(金)午後に文化講演会が、本校卒業生（電気工学科2期生）で毎日新聞社論説委員兼編集委員の池田知隆氏を招いて開催されました。池田さんは「今、語りたいことー有明高専のみなさんへ」という演題で、在学されてあられた頃の貴重な写真をまじえて、サイクリングで日本一周をされた話、悩んだときには背丈を伸ばす道を選択したほうが良いなどの体験談を熱く語られ、学生も先輩の言葉にじっと耳を傾けていました。

(学生主事 永守 知見)



第43回（平成18年度）

7月14日(金)～16日(日)

九州沖縄地区高等専門学校体育大会成績

7月8日(土)・9日(日)(バスケットボール女子)、11月18日(土)～21日(火)(ラグビーフットボール)

【全】は全国大会出場

〈有明高専担当〉

◎陸上競技

【全】男子100M	優勝	井形 亮(5E)
【全】男子200M	優勝	井形 亮(5E)
【全】 "	3位	的場仁志(5C)
【全】男子4×100Mリレー	優勝	石橋昇平(4A)・池田隆宏(5E) 的場仁志(5C)・井形 亮(5E)
【全】男子砲丸投	3位	荒木貴光(3I)
【全】男子やり投	優勝	終田貴史(3E)
女子4×100Mリレー	3位	稗島華世(1C)・古賀可奈子(2-3) 安田有希(5A)・栗山明子(4C)
【全】女子砲丸投	2位	安田有希(5A)



◎ソフトテニス

男子団体戦 予選リーグ敗退



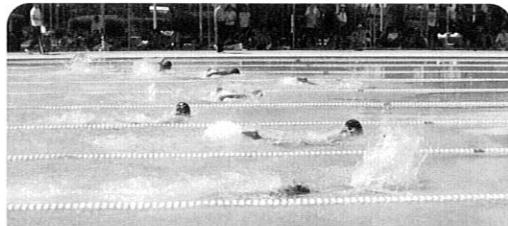
◎バドミントン

【全】男子団体戦	準優勝	
【全】男子ダブルス	準優勝	池上慶祐(5E)・田上拓弥(2-5)
女子団体戦(オーブン)	優勝	
【全】女子シングルス	優勝	柿木美沙(5C)
【全】女子ダブルス	優勝	柿木美沙(5C)・福永茉依(3C)



◎水泳

団体総合	3位	
【全】男子100M平泳ぎ	3位	坂本実聰(2-4)
【全】男子400M自由形	2位	蒲池悠斗(1C)
【全】男子800M自由形	2位	蒲池悠斗(1C)
【全】男子100Mバタフライ	2位	山口大志(3I)
【全】男子200Mバタフライ	優勝	山口大志(3I)
【全】女子100M平泳ぎ	2位	服部 布(1I)
女子100M自由形	3位	服部 布(1I)



◎ハンドボール

◎ラグビーフットボール

〈熊本電波高専担当〉

◎硬式野球

準優勝

◎バスケットボール

男子 予選リーグ敗退
女子 準優勝



◎卓球

【全】男子団体戦	優勝	
【全】男子ダブルス	優勝	宮崎 進(5A)・黒田龍太郎(5C)
【全】男子シングルス	準優勝	渡辺大也(2-1)
女子団体戦(オーブン)	準優勝	

◎剣道

男子団体戦 3位



〈大分高専担当〉

◎サッカー

【全】	準優勝	
-----	-----	--

◎バレーボール

男子 3位
女子 3位



◎テニス

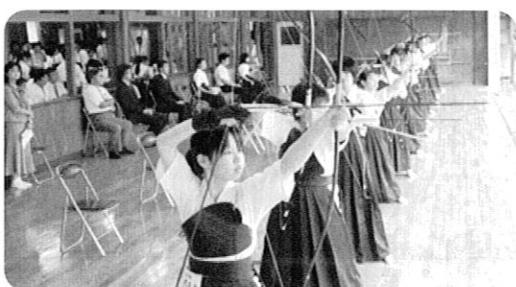
【全】男子団体戦	準優勝	
【全】女子ダブルス	準優勝	近藤志穂(5A)・坂本知栄子(3I)
【全】女子シングルス	優勝	近藤志穂(5A)
【全】 "	準優勝	坂本知栄子(3I)
女子団体戦(オーブン)	優勝	

◎柔道

【全】男子90kg以下級	優勝	堺田玉輝(1C)
男子90kg超級	3位	時川昌大(4E)

第41回（平成18年度）全国高等専門学校体育大会成績

8月1日(火)～12日(土)



〈奈良高専担当〉

◎陸上競技

男子100M	優勝	井形 亮(5E)
男子200M	優勝	井形 亮(5E)
棄権		的場仁志(5C)
男子4×100Mリレー	2位	石橋昇平(4A)・池田隆宏(5E)
男子砲丸投	予選敗退	荒木貴光(3I)
男子やり投	6位	柊田貴史(3E)
女子砲丸投	5位	安田有希(5A)

〈舞鶴高専担当〉

◎バドミントン

男子団体戦	3位	
男子ダブルス	優勝	池上慶祐(5E)・田上拓弥(2-5)
女子シングルス	3位	柿木美沙(5C)
女子ダブルス	ベスト8	柿木美沙(5C)・福永茉依(3C)

〈神戸市立高専担当〉

◎水泳

男子100M平泳ぎ	予選15位	坂本実聰(2-4)
男子100Mバタフライ	予選11位	山口大志(3I)
男子200Mバタフライ	予選11位	山口大志(3I)
男子400M自由形	予選18位	蒲池悠斗(1C)
男子800M自由形	決勝12位	蒲池悠斗(1C)
女子100M平泳ぎ	決勝5位	服部 布(1I)

〈奈良高専担当〉

◎卓球

男子団体戦	予選敗退	
男子ダブルス	一回戦敗退	宮崎進(5A)・黒田龍太郎(5C)
男子シングルス	二回戦敗退	渡辺大也(2-1)

〈和歌山高専担当〉

◎サッカー

ベスト8

〈明石高専担当〉

◎柔道

個人戦 男子90kg級	優勝	堺田玉輝(1C)
-------------	----	----------

〈舞鶴高専担当〉

◎テニス

男子団体戦	一回戦敗退	
女子ダブルス	二回戦敗退	近藤志穂(5A)・坂本知栄子(3I)
女子シングルス	3位	近藤志穂(5A)
"	一回戦敗退	坂本知栄子(3I)

第36回西日本地区高等専門学校弓道大会

7月20日(木)～21日(金)/久留米総合スポーツセンター内弓道場

〈有明高専担当〉

男子団体戦	予選敗退	
女子団体戦	予選敗退	

学校特別表彰

— 全国高等専門学校体育大会優勝者 —

バドミントン (男子ダブルス)

5E 池上 慶祐



左：池上慶祐君(5E) 右：田上拓弥君(2E)

最後の大会となる今大会で念願の全国優勝を果たすことができ、本当にうれしかったです。今年はキャプテンという立場もあって例年以上に練習に励むことができたと思います。

また、地域のクラブの方に練習の相手をしてもらったり、回りの人達の支えも数多くありました。そういうことが全国優勝に繋がったと思います。試合では、最後の大会ということでいつも以上の不安と緊張があり、緒戦から接戦を強いられました。しかし、そういう不安や緊張以上に勝ちたいという気持ちが強く、疲労で足がつりそうになんでも気持ちで乗り切ることができました。最後の最後で試合中一番大切なのは気持ちだということを実感させられました。自分はもう試合をすることはありませんが、4年以下の人達には今後強い気持ちで試合に臨み、いい結果を出してほしいと思います。

陸 上 (男子100m・200m)

5E 井形 亮



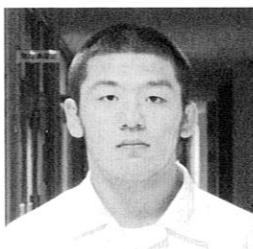
8月9日。この日をもって高専での5年間の陸上人生を終えた…。

結果としては、100mと200m共に大会新で優勝、リレーで2位と最高の引退試合となつた。今思うと、この五年間いろんなことがあった…。仲間たちと共に流してきた汗、時には涙をながすこと。すべてがうまくいくわけではない。そんなとき、仲間たちと支えあい、そして助け合い、いろんなことを乗り越えてきた。真新しくちょっと大きかったユニフォームも、今やボロボロで小さくなつた。そんなユニフォームにもいろんな思い出が詰まつている。楽しかった！後悔はない。俺はこの有明高専で陸上をやめてほんとによかったと心の底から思うよ。

今までありがとうございました…。

柔 道 (男子90kg級)

1C 堀田 玉輝



私は8月5日に行われた全国高専大会の90kg級で優勝することができました。このように優勝できたのも私と一緒に毎日練習してくださる柔道部のみなさんのおかげです。今後の目標は、全国高専大会での団体戦優勝、個人戦で5連覇することとインターハイでの優勝です。今度の大会では、チームで優勝して柔道部全員で勝ちたいです。これからも、慢心することなく、目標を達成できるように練習に励んでいきたいです。「柔道といえば有明高専」と言われるようになりたいです。

プログラミングコンテスト

41 二宮 啓聰

今年のプログラミングコンテストは茨城高専で10月7日～8日に行われた。10月6日の移動日に、日本の太平洋側海上に発生した低気圧による強風豪雨の影響で、東京～茨城間の特急が止まってしまい、半日以上拘束、結果的に電車内で夜を明かすというハプニングがあったが、何とか本選開始までには会場にたどり着くことはできた。

3つある部門のうち今回は有明高専から競技、自由の2部門が予選審査を通過し本選に参加した。2年生2人と私の3人で参戦した競技部門の内容は簡単に言うと「陣取りゲーム」。限られた条件のもと、いかにコンピュータに先読みをさせるのかが鍵となった。3年生5人で構成された自由部門のチームではネットワ

ーク上で動作するワープロを開発した。同時に複数人が使用することを考慮し、操作の排他処理に力を入れた。結果は、競技部門は惜しくも初戦敗退であったが、自由部門では審査委員特別賞を受賞した。3年生のみで健闘し、賞を受賞した自由部門のチームに心から賞讃の言葉を送りたい。



会場内の様子

回ボットコンテスト九州沖縄地区大会

有明高専Aチーム (CENTI-PEDE)

5M 佐藤 剛

私は昨年「Heavy級」の手動ロボットを設計しましたが、大会では一度も自動ロボットにバトンをパスすることができず、悔しい思いをしました。その思いから今年は絶対に自分のロボットにオブジェをパスするという強い気持ちを持って設計に臨みました。

大会では二回戦で緊張から思わずアクシデントを起こし、実力を発揮できずに負けてしまいとっても落ち込みました。それでも私は全国大会出場への期待を持っていましたが、表彰式では何も受賞できず、本当にもうダメかと思いました。しかし最後の最後に全国大会出場チームとして表彰され、心の底から喜びました。

これから全国大会まで期間があるので、優勝を目指して今まで以上に頑張って行きたいと思います。そしてロボコンを応援してくださった多くの方々に心より感謝いたします。

有明高専Bチーム (二転ばってん)

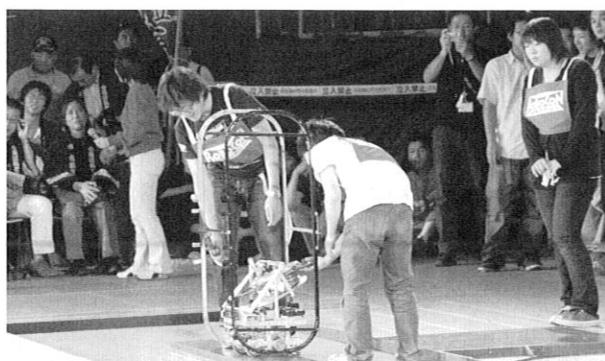
5M 岩崎 真人

今回の大会は例年より1ヶ月程早く地区大会が行われ、その分早くから活動を始めました。それでも納得のいく完成度を持つロボットをつくることができず、満足な結果を残すことはできませんでした。しかしこの高専にもない形とアイデアで、とても面白いロボットだったと思います。遅くまで学校に残って製作に携わってくれたチームの皆には感謝したいと思っています。

結果的に有明高専としては、全国大会に2回連続出場ということで本当によかったです。今までなかなかできなかった全国優勝も、今回は十分狙える位置にあると思います。今まで支えて下さった多くの方々にはまた迷惑をおかけしますが、これからもご支援をいただきたいと思います。



CENTI-PEDE Aチーム



二転ばってん Bチーム



全国行くぞ

13

ロボットコンテスト全国大会

平成18年11月26日（日）に、両国国技館（東京都）にて、ロボットコンテスト2006全国大会が開催されました。本校からは、昨年度に引き続き1チームが出場し、ベスト8という好成績を収めました。

今年のテーマは“ふるさと自慢特急便”。競技内容は、ロボットが様々な障害を克服しながら、ふるさとの特産品「ふるさとオブジェ」を運ぶ速さを競います。有明高専のオブジェは、大牟田市の「大蛇山」で勇壮な姿が審査員や司会の方に大変好評でした。

全国大会は、地区大会ではほとんど見られなかつたふるさとゴールのオーバーレードで、競技レベルの高さに驚かされました。その中で本校のロボットが互角に戦っていたことは、学生たちにとって大きな自信になったことでしょう。最後になりましたが、後援会、同

窓会を始めとして、ご協力いただいた多くの方々に感謝の意を表し、心より厚く御礼申し上げます。

(M科 岩本達也)



大会終了後

英語弁論大会

7月21日

3 A 松田 治子

7月21日(金)に熊本の八代高専で行われた第39回九州沖縄地区国立高専英語弁論大会のスピーチの部に出場させていただきました。20日に親睦会があり、一泊二日の日程だったのですが、21日締切りのレポートが2つあり、私は、当日の朝に現地へ行くという条件で何とか出場することができました。英語の弁論大会は初めてで、緊張していました。最後までスピーチの文章が覚えられず、感情を表現する段階まで行かないまま臨んだ本番でしたが、審査員特別賞をいただくことができました。

大会前夜泊まることができず、他の高専の人と交流ができなかったのが残念でしたが、スピーチの原文を考えたことで自分を振り返る良い機会となりました。ぎりぎりまで先生方にご迷惑をおかけして申し訳なかったと思います。指導してくださいました先生方本当にありがとうございました。

けして申し訳なかったと思います。指導してくださいました先生方本当にありがとうございました。



松田さんと審査員の先生

左:ウイリアム・ペリー先生 右:池田志郎先生

ホンダエコラン

8月6日

5 C 藤山 貴士

こんにちは、自動車工学研究部です。私達は毎年8月に行われているHONDAエコノパワー自動車燃費競技会（エコラン）に出場しています。エコランとは自分達で一から製作した自動車でガソリン1ℓ当たり、どれだけ長い距離を走行できるかを競う競技会です。企業、学校、個人と様々なチームが参加する競技で、優勝チームは1ℓで3000kmといった記録を残します。今年の大会では、タイムオーバーにより記録を残すことができませんでした。今年の自動車は、去年と比較しても非常に調子が良かつただけに残念です。

しかし、今回味わった辛酸を忘れず、今年行

った研究、開発をさらに進め、来年こそ目標である燃費500kmを達成できるよう、努力を続けていきます。



走行中のマシン

ソーラーボート

8月5日・6日

4 M 高田 康平

私たちソーラーボート愛好会は本年度より正式な部活として発足し、柳川のソーラーボート大会を目標に活動しています。

今年はこれまでのような改造ではなく、一からボートを作ることに挑戦しました。しかし、船の製作の経験などなく、順風満帆とはいかず難航しました。設計、製作、運用のノウハウなどまったくなく當時手探りで作業を進めてきました。しかも大会前日までトラブル続きで本当にやれるのかと不安要素満載でしたが何とか大会への出場を果たしました。

今回は初めてのことばかりなので性能との両立は難しく、時間的余裕もなかったので、製作のノウハウと情報収集を目的としました。そのため大

会では前回よりも成績は下がってしまいましたが、多くのことを学ぶことができました。次の大会にはより完成度の高い船で挑みたいと思っています。



競技中のボート

夏季実習報告(専攻科)

夏季実習に参加して

この夏、私は、福岡市にあるRKB毎日放送で夏季実習として2週間お世話になった。

現在、放送業界では、アナログ放送からデジタル放送への変更という大きな節目の時期を迎えており、RKBもそのひとつである。実習では、最初の1週間は、アナログ、デジタル両放送の送信概論を学び、残りの1週間は、「今日感テレビ」という夕方の情報番組のスタジオで、カメラや音声、照明の機材操作や、DJ等を体験させて頂いた。私は、1つの番組を沢山のスタッフが、それぞれの技術を駆使し本当に楽しそうに制作しているのを見て、放送局に大きな魅力を感じた。そして、初めて心から、こんな仕事をしたいと思った。

私は、現在、放送局勤務では必携の第一級陸上無線技術士という資格取得に向けて勉強に取り組んで

生産情報システム工学専攻1年 秋富 裕紀

いる。難易度の高い資格ではあるが、頑張って取得し、将来は放送局で勤務したい。夏季実習を行ったことは、これから的人生で大きな経験となることであろう。



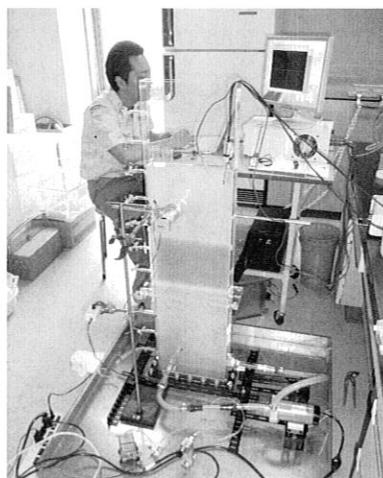
RKB放送局の前で

夏季実習に行って

私は、東京都にある明電舎株式会社で実習を行いました。実習を行った所は、明電舎の総合研究所の環境研究部で、マイクロナノバブルの研究に携わりました。この環境研究部での装置開発は最近では水処理などの様々な分野に応用されています。その中の廃水処理に着目して、マイクロナノバブルの浮上分離特性を明らかにすることを実習テーマとしました。実際に会社での仕事を行うにあたって、学校の特別研究の雰囲気とは全く違うもので、失敗しないように実験が上手くいくように自分達で考えなければなりませんでした。しかし、失敗というものは必ず起こるもので、重要なのはその失敗について検討することで、次に行うときに役に立つということを知りました。また、失敗から得られるものがあり、いかに“考える”ということの重要性が理解できま

応用物質工学専攻1年 堀 浩士

した。このことを学校の特別研究、これからの中学生やあらゆる物事に対して活かしていきたいです。



浮上分離実験装置

「まちセン」で学んだもの

東京都にある(財)練馬区都市整備公社 練馬まちづくりセンターに特別実習Iとして10日間お世話になりました。まず、まちづくりセンター(通称:まちセン)って何するところ?と疑問に思う方が大半だと思います。簡単にいうと、まちセンとは、住民が主役のまちづくりを支援し、住民・事業者・行政から独立し、中間的な立場からまちづくり事業を実践している組織です。

まちセンでは、まちづくり団体の方へ取材をしてその記事の作成、マチに出てインタビュー、マチ歩き、ヒアリング、まちづくり交流会…などをしました。そこでは人と接する機会が多くあり、やはりその上で重要なのは人と人とのコミュニケーションだと再認識しました。何をするにしても大事なのは、みんなで創っていく楽しさであり、顔を見ながら学

建築学専攻1年 中島 宏典

べることであり、視野を広げられることだと感じました。また、多様な意見の中で考える場というものを体験できたのは、今後の貴重な財産になると思います。



筆者(前列左端)とスタッフ

トピックス

献血活動、知事から感謝状

このたび、福岡県より本校の長年の献血活動に対して、感謝状を頂戴しました。今後とも協力をお願いします。

(学生主事 永守知見)



有友情報室の開設にあたって

学校では、学校と学生のお付き合いの期間は、入学から卒業までが一般的です。ところで、このたび、有明高専では、卒業生と学校が相互に情報交換を図る目的から「有友情報室」を開設しました。本校の近年の活動には、小・中学生との交流もありますので、「入学から卒業まで」を、「入学以前から卒業後まで」に広げた画期的な取り組みといえましょうか。

有友情報室の活動としては、例えば、学校から卒業生の皆さんへのUターンなどへの転職求人情報提供を行い、逆に卒業生から学校教育への有用な情報提供・人的支援などをいただこうとするものです。在校生のための進路支援室とも連携し、連続性・双方向性をキーワードに、高等教育機関のユニークな組織を目指していきたいものです。

(有友情報室長 川嶋義則)

ボランティア愛好会が誕生しました

今年5月に、本校で初めてボランティア愛好会が誕生しました。

高専生が自主性と責任感、社会性を養うためには、家庭と学校という枠を超えて、地域社会とのつながりを持つことが重要です。地域の中では、企業活動や行政の仕事が及ぼない分野が多く、住民の自主的なボランティア活動が大きな役割を果たしていますが、高齢化が進む中で、一層、高専生のような若くて元気とした、知的な学生の力が求められています。

これまで学生のボランティア活動への要請がありましたが、それを受ける仕組みがなかったために個々の教員がその都度、クラスやクラブの学生に働きかけて対応していました。愛好会が生まれて早速、夏休み中も含めて地域の公民館や病院、福祉施設、ボランティア団体などの要請に応えて活動し、それぞれのところから大きな感謝と評価を頂いています。また、参加した学生にとっても貴重な社会経験を積む機会になっています。現在の会員は有富慎也(5A)

部長以下16名ですが、これから多くの学生に働きかけていきたいと考えています。顧問は新谷(A)、川嶋(M)、焼山(G)の3名です。ボランティア活動に興味がある学生は遠慮なく声をかけて下さい。待っています。

(顧問 新谷肇一)



顧問と会員学生

建築設計競技

福岡県建築士事務所協会主催の建築設計競技の課題は、高校生の部が「住宅地に建つ子育て支援センター」、専門学校生の部が「住宅地に建つ子育てと生活の支援センター」でした。高校生の部では多くの3A学生が入賞し、団体賞として優秀学校賞を受賞しました。

主な個人賞は、知事賞が江崎ひかるさん、教育委員会賞が下川紘子さん、金賞が古賀あゆみさん、銀賞が吉村直樹君、銅賞が渕上達矢君と松藤辰矢君で、その他、佳作2名、入選5名でした。専門学校の部では5A学生1名が入選しました。

(A科 加藤浩司)



アクロス福岡での授賞式の様子

編集後記

いつの間にか今年も残りあと僅かになって来ました。やり残したこと多く、日々追われています。今夏から秋までの総決算をお届けします。多岐にわたる有明高専のアクティビティを感じ取っていただけましたでしょうか。特集の国際交流2006も、高専祭中専攻科棟ロビーでの写真展で紹介していましたので、ご存知の方もあるでしょう。近隣諸国とは経済的に相互依存を強めています。交流を重ねて親睦や知見を深めて行けば、やがては、自らの存在意義に気づき、日本がテクノロジー上リードし続けるためには何をどうすべきかにも想いを馳せる成果につながると思います。

有明高専だより 第120号

平成18年12月20日

編集・有明高専広報室
発行・有明工業高等専門学校
〒836-8585 大牟田市東萩尾町150
TEL 0944-53-8861(学生課)
<http://www.ariake-nct.ac.jp/>

